

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 ・今後施設・設備の経年劣化への対応や長寿命化対策が必要である。
--

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性, 対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》 ■ 適切である □ 見直しの余地がある	・図書館サービスが円滑に実施されるために必要不可欠な業務である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民, または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》 ■ 向上の余地がない □ 向上の余地がある	・様々な観点で施設の維持管理を行い、利用者が快適に、また安心安全な利用ができるよう維持運営されている。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し, 市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し, 個々の業務の効率化等, 業務委託や臨時雇用等)》 ■ 削減の余地がない □ 削減の余地がある	・施設・設備の維持管理や日常的な清掃業務・定期的な清掃業務など業務委託により実施しているが、長期・集約契約等により費用の軽減化を図っている。・書架周り等の日常清掃は職員により実施している。
	一次評価結果 必要性 ■ 適切 □ 見直しの余地がある 有効性 ■ 適切 □ 見直しの余地がある 効率性 ■ 適切 □ 見直しの余地がある	全体総括(振り返り, 反省点) 施設の維持管理は、利用者が快適に安全に使えるよう、また図書館サービスを支える上で不可欠な事業であり、効率的な運用も図っている。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止, 廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 ■ 影響は大きく, 問題の発生が予想される □ 代替案や対策を採ることで対応できる ・図書館サービス事業と一体的に行うことが必要不可欠な事業である。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) ■ 他に手段がない □ 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> □ 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる □ 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 ・図書館は、市民の生涯学習の拠点であり、市民生活に不可欠な施設になっている。
	資源配分	現状維持	

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 ・今後施設・設備の経年劣化への対応や長寿命化対策が必要である。
--

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性, 対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》 ■ 適切である □ 見直しの余地がある	・図書館サービスが円滑に実施されるために必要不可欠な事業である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民, または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》 ■ 向上の余地がない □ 向上の余地がある	・様々な観点で施設の維持管理を行い、利用者が快適に、また安心安全な利用ができるよう維持運営されている。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し, 市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し, 個々の業務の効率化等, 業務委託や臨時雇用等)》 ■ 削減の余地がない □ 削減の余地がある	・適切な契約の執行により、最小限の決算に努めている。
	一次評価結果 必要性 ■ 適切 □ 見直しの余地がある 有効性 ■ 適切 □ 見直しの余地がある 効率性 ■ 適切 □ 見直しの余地がある	全体総括(振り返り, 反省点) 利用者に安心安全、そして快適な図書館利用を提供するためには、必要不可欠な事業である。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止, 廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 ■ 影響は大きく, 問題の発生が予想される □ 代替案や対策を採ることで対応できる ・図書館サービス事業と一体的に行うことが必要不可欠な事業である。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) ■ 他に手段がない □ 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> □ 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる □ 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 ・図書館は、市民の生涯学習の拠点であり、市民生活に不可欠な施設になっている。
	資源配分	現状維持	

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
	③成果の向上余地《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》 <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある
有効性評価	⑤事業費の削減余地《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》 <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
全体総括(振り返り、反省点)	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由
	資源配分	現状維持	

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
有効性評価	③成果の向上余地《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある
効率性評価	⑤事業費の削減余地《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある
一次評価結果	
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
全体総括(振り返り、反省点)	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む)
<input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由
	資源配分	現状維持	

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	図書館は、すべての利用者へ資料及び幅広い情報を提供する場であり、情報提供のための資料収集・保存には適している。
	③成果の向上余地《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》 <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	利用者が安心・安全に利用できるための施設の維持管理は図書館運営の基本である。
有効性評価	⑤事業費の削減余地《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》 <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	岩間図書館は、複合施設として市民センターいわまの2階に設置されているため、光熱水費等の維持費は、岩間支所地域課管理であり、これ以上の削減余地はない。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点) 施設の維持管理については、利用増加の促進及びサービスの向上が図れた。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案 課題なし
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法 特になし

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる この事業がなされなければ、本市の図書館サービス事業を実施すること不可能
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 市民の生涯学習を推進し、本市の政策・施策を実現する上で必要不可欠な事業であり、現行どおり継続するのが適当である。
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画	財会計コード 10	財会事業コード 1006283	記入日 平成28年3月31日
			所属部課名 笠間図書館

事務事業名	笠間図書館サービス事業		評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画重点視点	補助単独区分	所管省庁		
	評価事業		重要事務事業	○		健康都市づくり		市単独		
総合計画体系	政策	05 人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり	新規・継続	継続			補助率			
	小政策	02 だれもが自ら学び、能力を発揮できる環境をつくります	開始年度	終了年度						
	施策	01 生涯学習	H16	単年度繰返し	共催者・関係団体					
	小施策	02 施設・設備等の活用と充実								
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画				
	一般会計	09 教育費	05 社会教育費	03 図書館費	001300000 笠間図書館サービス事業	根拠法令	図書館法			
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無		
						直営				

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H27事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
・図書館サービス事業は、市民の生活に必要な様々な資料・各種講座の提供やギャラリーを利用した情報の発信等広い分野において市民が求める情報を提供し、市民の教養・調査研究・レクリエーション等に資する事業である。・「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成13年法律第154号)の成立により、本市でも平成20年3月に「笠間市子ども読書活動推進計画」、平成27年4月に「第二次笠間市子ども読書推進計画」が策定され、「市立図書館の整備」や「市立図書館と学校図書館の連携・協力」等が方策としてあげられている。	・図書館資料の収集(選定・発注・受入等)・提供(貸出・相互貸借等)・図書館資料管理(整理・配架、修理、延滞督促等)・各種の学習情報・機会の提供、地域情報の提供・ブックスタート事業やおはなし会を開催し、幼少期から本に親しむ機会を提供する・図書館1年生事業・子ども読書フェスティバルの開催	・資料・情報の提供 ・子どもの読書活動の推進	・報酬 32千円・社会保険料 1,924千円(4,798千円内)・賃金 15,471千円(39,550千円内)・報償費 40千円・旅費 2千円・消耗品費 5,688千円(8,388千円内)・食料費 6千円・印刷製本費 92千円(185千円内)・通信運搬費 20千円・傷害保険料 14千円
	H28事業計画 ・図書館資料の収集(選定・発注・受入等)・提供(貸出・相互貸借等)・図書館資料管理(整理・配架、修理、延滞督促等)・各種の学習情報・機会の提供、地域情報の提供・ブックスタート事業やおはなし会を開催し、幼少期から本に親しむ機会を提供する・図書館1年生事業・子ども読書フェスティバルの開催	H29事業計画 ・図書館資料の収集(選定・発注・受入等)・提供(貸出・相互貸借等)・図書館資料管理(整理・配架、修理、延滞督促等)・各種の学習情報・機会の提供、地域情報の提供・ブックスタート事業やおはなし会を開催し、幼少期から本に親しむ機会を提供する・図書館1年生事業・子ども読書フェスティバルの開催	H30事業計画 ・図書館資料の収集(選定・発注・受入等)・提供(貸出・相互貸借等)・図書館資料管理(整理・配架、修理、延滞督促等)・各種の学習情報・機会の提供、地域情報の提供・ブックスタート事業やおはなし会を開催し、幼少期から本に親しむ機会を提供する・図書館1年生事業・子ども読書フェスティバルの開催

5 事務事業の目的と手段			単位
目的	①対象(働きかける相手・もの)	利用者・市民	④対象指標
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どうい状態にしたいのか)	・市民生活の質を高め、豊かで安心できるものとなるよう様々な学習機会・情報が得られる。・市民・利用者からの資料案内・調査(レファレンス)に的確に応える	⑤成果指標
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	・利用者の要望に応じた、様々な観点で資料・情報・学習機会を提供する。・様々なテーマに基づき、レファレンス事例の保存活用を図る。・図書館資料を充実し、確保する。・各種子ども読書活動推進事業	⑥活動指標
			笠間地区の市民 人
			入館者数 人
			資料貸出冊・点数 冊・点
			おはなし会・読書フェスティバル参加者 人
			開館日数 日
			開館時間 時間
			資料購入点数 点
			おはなし会・読書フェスティバル開催日数 日

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																		
		事業費	単位	24年度(実績)		25年度(実績)		26年度(実績)		27年度(実績)		28年度(計画)		29年度(計画)		30年度(計画)		
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	千円															
		国庫支出金	千円	0	0	169,350	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	84,675	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	281,121	0	0	221	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	0	0	142,254	98,669	117,018	99,005	114,818									
	事業費計(ア)	千円	0	0	677,400	98,890	117,018	99,005	114,818									
人件費	職員割合	人 千円	3.40	25,500	3.10	23,250	3.78	28,313	4.175	31,313	4.175	31,313	4.175	31,313	4.175	31,313	4.175	31,313
	時間外	千円		377		432		221		240		240		240		240		240
	嘱託臨時	千円		14,127		14,679		17,062		15,471		15,471		15,471		15,471		15,471
	他課の協力分	千円		0		0		0		0		0		0		0		0
	人件費計(イ)	千円		40,004		38,361		45,596		47,024		47,024		47,024		47,024		47,024
	トータルコスト(ア)+(イ)	千円		40,004		38,361		722,996		145,914		164,042		146,029		161,842		
		指標区分	単位	24年度(実績)		25年度(実績)		26年度(実績)		27年度(実績)		28年度(目標)		29年度(目標)		30年度(目標)		
活動指標	開館日数	日		296		292		296		296		298		298		298		
	開館時間	時間		2,950		2,915		2,955		2,955		2,975		2,975		2,975		
	資料購入点数	点		6,350		5,466		6,830		6,826		6,830		6,830		6,830		
	おはなし会・読書フェスティバル開催日数	日		88		76		80		68		80		80		80		
対象指標	笠間地区の市民	人		27,293		27,365		27,026		26,659		27,000		27,000		27,000		
				0		0		0		0		0		0		0		
成果指標	入館者数	人		230,617		273,543		269,240		274,936		280,000		280,000		280,000		
	資料貸出冊・点数	冊・点		537,351		493,377		570,000		476,744		570,000		570,000		570,000		
	おはなし会・読書フェスティバル参加者	人		1,389		1,190		950		830		1,500		1,500		1,500		

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 ・図書館資料や各種の情報・機会提供について様々な観点での要望があり、提供できる環境整備が必要である。・子ども読書活動推進については、現行事業の継続と学校図書館との連携・協力等が方策としてあげられている。
--

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	・図書館は、「教育機関」「社会教育機関」という法的位置づけがされており、学校教育、家庭教育と連携して、市民の生涯学習の場を提供している。
	③成果の向上余地《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》 <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	・図書館の利用は、もっぱら利用者の自主性・自発性に基づいており、図書館資料は学習資源として活用され、市民の生涯学習を支援し、多くの利用が示すとおり有効性は高く、利用も伸びている。
有効性評価	⑤事業費の削減余地《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》 <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	・資料の購入費は、最低限界値近辺である。職員においても全職員の2/3を非常勤職員で対応し、コスト削減を図りながら、各種サービス・事業を各図書館の状況に応じて提供している。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点) ・本事業は、図書館の根幹的業務であり、利用者が必要とする資料・情報の収集・提供等を行うことにより市民生活を支えている。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる ・図書館サービス事業と一体的に行うことが必要不可欠な事業である。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 笠間市の図書館は全国でも有数のサービス実績を上げており、市民は元より市外の多くの利用者からも頼られている。今後とも多くの利用者の要望に応え、各種の資料や情報を提供し、生涯学習の拠点として高い水準のサービスを提供することが必要である。
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画 財会計コード 10 財会事業コード 1006282 記入日 平成28年3月31日 所属部課名 友部図書館

事務事業名	友部図書館サービス事業		評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画重点視点	補助単独区分	所管省庁
			評価事業	重要事務事業	○			
				総合戦略関連事業	○	健康都市づくり		
				新規・継続	継続			
総合計画体系	政策	05 人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり	事業期間	開始年度	終了年度		補助率	
	小政策	02 だれもが自ら学び、能力を発揮できる環境をつくります		H6	単年度繰返し	共催者・関係団体		
	施策	01 生涯学習						
	小施策	02 施設・設備等の活用と充実						
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画		
	一般会計	09 教育費	05 社会教育費	03 図書館費	000300000 友部図書館サービス事業	根拠法令	図書館法	
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無
						直営	—	—

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H27事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
<p>・図書館サービス事業は、市民の生活に必要な様々な資料・各種講座の提供やギャラリーを利用した情報の発信等広い分野において市民が求める情報を提供し、市民の教養・調査研究・レクリエーション等に資する事業である。</p> <p>・「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成13年法律第154号)の成立により、本市でも平成20年3月「笠間市子ども読書活動推進計画」が策定され、「市立図書館の整備」や「市立図書館と学校図書館の連携・協力」等が方策としてあげられている。</p>	<p>・図書館資料の選定・発注・受入・配架、相互貸借手続き</p> <p>・文学講座等の開催</p> <p>・ギャラリーの提供</p> <p>・ブックスタート事業やおはなし会を開催し、幼少期から本に親しむ機会を提供する</p> <p>・図書館1年生事業</p> <p>・子ども読書フェスティバルの開催</p>	<p>・各種情報の提供</p> <p>・子どもの読書活動の推進</p>	<p>報償費 164千円</p> <p>消耗品費 790千円</p> <p>使用料賃借料 227千円</p> <p>その他 48千円</p> <p>【笠間図書館予算分】</p> <p>共済費 1,893千円</p> <p>貸金 16,031千円</p> <p>消耗品費 1,700千円</p>
H28事業計画		H29事業計画	H30事業計画
<p>・図書館資料の選定・発注・受入・配架、相互貸借手続き</p> <p>・文学講座等の開催</p> <p>・ギャラリーの提供</p> <p>・ブックスタート事業やおはなし会を開催し、幼少期から本に親しむ機会を提供する</p> <p>・図書館1年生事業</p> <p>・子ども読書フェスティバルの開催</p> <p>・学校等への資料貸出</p>		<p>・図書館資料の選定・発注・受入・配架、相互貸借手続き</p> <p>・文学講座等の開催</p> <p>・ギャラリーの提供</p> <p>・ブックスタート事業やおはなし会を開催し、幼少期から本に親しむ機会を提供する</p> <p>・図書館1年生事業</p> <p>・子ども読書フェスティバルの開催</p> <p>・学校等への資料貸出</p>	<p>・図書館資料の選定・発注・受入・配架、相互貸借手続き</p> <p>・文学講座等の開催</p> <p>・ギャラリーの提供</p> <p>・ブックスタート事業やおはなし会を開催し、幼少期から本に親しむ機会を提供する</p> <p>・図書館1年生事業</p> <p>・子ども読書フェスティバルの開催</p> <p>・学校等への資料貸出</p>

5 事務事業の目的と手段		単位
目的	①対象(働きかける相手・もの)	利用者・市民
	④対象指標	友部地区の市民
手段	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どうい状態にしたいのか)	・市民の調査研究等に対し、図書資料の情報を提供し生涯学習の支援を行う。・市民・利用者からの資料案内・調査に的確に応える。・事業への参加を通し
	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	・様々な観点で資料・情報・学習機会を提供する。・図書館資料を充実し、確保する。・各種子ども読書活動推進事業を開催する。
	⑤成果指標	入館者数 人 資料貸出点数 点 おはなし会・読書フェスティバル参加者 人
	⑥活動指標	開館日数 日 開館時間 時間 資料購入点数 点 おはなし会・読書フェスティバル開催日数 日

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																
		事業費	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)	29年度(計画)	30年度(計画)						
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	3,750	0	0	0	0					
			県支出金	千円	0	0	1,875	0	0	0	0					
			地方債	千円	0	0	0	0	0	0	0					
			その他	千円	0	0	6,225	0	0	0	0					
			一般財源	千円	0	0	3,150	1,260	1,275	1,275	1,275	1,275				
	事業費計(ア)	千円	0	0	15,000	1,260	1,275	1,275	1,275	1,275						
人件費		職員割合	人 千円	0.00	0.00	4.03	30,188	3,550	26,625	0.000	0	0.000	0	0.000	0	
		時間外	千円	0	0	556	503	400	400	400						
		嘱託臨時	千円	0	0	17,390	0	0	0	0						
		他課の協力分	千円	0	0	0	0	0	0	0						
		人件費計(イ)	千円	0	0	48,134	27,128	400	400	400						
トータルコスト(ア)+(イ)		千円	0	0	63,134	28,388	1,675	1,675	1,675							
指標区分		単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	29年度(目標)	30年度(目標)							
活動指標	開館日数	日	0	0	297	296	298	298	298							
	開館時間	時間	0	0	2,965	2,956	2,965	2,965	2,975							
	資料購入点数	点	0	0	6,000	4,761	6,830	6,830	6,830							
	おはなし会・読書フェスティバル開催日数	日	0	0	63	64	89	89	89							
対象指標	友部地区の市民	人	0	0	35,957	35,910	35,900	35,900	35,900							
			0	0	0	0	0	0	0							
			0	0	0	0	0	0	0							
成果指標	入館者数	人	0	0	240,000	215,535	250,000	250,000	250,000							
	資料貸出点数	点	0	0	480,000	438,685	500,000	500,000	500,000							
	おはなし会・読書フェスティバル参加者	人	0	0	1,098	1,664	4,300	4,300	4,300							

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》
 図書館資料の貸出実績は年々増えており、新刊書購入に対する市民ニーズは高まっているが、行政全体を取り巻く経済情勢の悪化により、年々図書館資料費が削減されており、サービスレベルの維持が困難な状況である。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
	③成果の向上余地《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある
有効性評価	⑤事業費の削減余地《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある
	一次評価結果	全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む)
<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画	財会計コード 10	財会事業コード 1006284	記入日 平成28年3月31日
			所属部課名 岩間図書館

事務事業名	岩間図書館サービス事業		評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画重点視点	補助単独区分	所管省庁
	評価事業		重要事務事業	○	○	健康都市づくり		
総合計画体系	政策	05 人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり	新規・継続	継続	地域の活性化		補助率	
	小政策	02 だれもが自ら学び、能力を発揮できる環境をつくります	開始年度	終了年度				
	施策	01 生涯学習	S60	単年度繰返し	共催者・関係団体			
	小施策	02 施設・設備等の活用と充実						
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画	笠間市子ども読書活動推進計画	
	一般会計	09 教育費	05 社会教育費	03 図書館費	002300000 岩間図書館サービス事業	根拠法令	(法定)図書館法 (法定)子どもの読書活動の推進に関する法律	
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無
						直営	—	—

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H27事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
<ul style="list-style-type: none"> ・図書資料及び、視聴覚資料の貸出は、図書館における図書館業務の根幹をなす業務 ・ブックスタート事業やおはなし会を開催し、幼少期から本に親しむ機会を提供する 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館資料の選定・発注・受入・配架、相互貸借手続き・館内資料展示14本(重点視点以外の時事的テーマを含む)・学校等への資料の貸出・ブックスタートやおはなし会、読書フェスティバル等の開催 ・図書館での絵本や児童書の貸出 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種資料、情報の提供と発信・子ども読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・消耗品費 1,950千円 ・食糧費 10千円 ・印刷製本費 50千円 ・保険料 4千円 ・委託料 1,492千円 ・使用料 1,869千円 ・備品購入費 5,600千円 ・負担金 40千円
	<p>H28事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館資料の選定・発注・受入・配架、相互貸借手続き・館内資料展示14本(重点視点以外の時事的テーマを含む)・学校等への資料の貸出・ブックスタートやおはなし会、読書フェスティバル等の開催 ・図書館での絵本や児童書の貸出 	<p>H29事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館資料の選定・発注・受入・配架、相互貸借手続き・館内資料展示14本(重点視点以外の時事的テーマを含む)・学校等への資料の貸出・ブックスタートやおはなし会、読書フェスティバル等の開催 ・図書館での絵本や児童書の貸出 	<p>H30事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館資料の選定・発注・受入・配架、相互貸借手続き・館内資料展示14本(重点視点以外の時事的テーマを含む)・学校等への資料の貸出・ブックスタートやおはなし会、読書フェスティバル等の開催 ・図書館での絵本や児童書の貸出

5 事務事業の目的と手段			単位
目的	①対象(働きかける相手・もの)	市民・利用者	④対象指標 岩間地区の市民 人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どうい状態にしたいのか)	・市民生活の質を高め、豊かで安心できるものとなるように、できるだけ多くの市民、利用者が多角的な資料・情報と学習機会が得られる	⑤成果指標 入館者数 人 資料貸出冊・点数 冊・点 おはなし会・読書フェスティバル参加者 人
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	・図書館資料を確保し、充実する。・利用者の要望に応じ、多角的な資料、情報と学習機会を提供する。・市民、利用者が必要な資料、情報を得られるように人的支援(資料案内・調査=レファレンス)を実施する。	⑥活動指標 開館日数 日 開館時間 時間 資料購入点数 点 おはなし会・読書フェスティバル開催日 日

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																	
		事業費	単位	24年度(実績)		25年度(実績)		26年度(実績)		27年度(実績)		28年度(計画)		29年度(計画)		30年度(計画)	
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円		0	0	0	3,250	0	0	0	0	0	0	0	
		県支出金	千円		0	0	0	1,625	0	0	0	0	0	0	0		
		地方債	千円		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		その他	千円		0	0	0	5,395	0	0	0	0	0	0	0		
		一般財源	千円		0	0	0	2,730	370	376	376	376	376	376			
	事業費計(ア)	千円		0	0	0	13,000	370	376	376	376	376	376				
人件費	職員割合	人 千円	1.95	14,625	1.80	13,500	2.55	19,125	2,550	19,125	2,550	19,125	2,550	19,125	2,550	19,125	
	時間外	千円		130		131		341		336		336		396		396	
	嘱託臨時	千円		8,195		8,582		8,925		9,030		9,059		9,059		9,059	
	他課の協力分	千円		0		0		0		0		0		0		0	
	人件費計(イ)	千円		22,950		22,213		28,391		28,491		28,520		28,580		28,580	
トータルコスト(ア)+(イ)		千円		22,950		22,213		41,391		28,861		28,896		28,956		28,956	
指標区分		単位	24年度(実績)		25年度(実績)		26年度(実績)		27年度(実績)		28年度(目標)		29年度(目標)		30年度(目標)		
活動指標	開館日数	日	296		293		297		296		297		295		297		
	開館時間	時間	2,947		2,925		2,965		2,955		2,965		2,945		2,965		
	資料購入点数	点	3,208		3,174		3,302		3,428		3,400		3,400		3,400		
	おはなし会・読書フェスティバル開催日	日	52		50		48		48		52		52		52		
対象指標	岩間地区の市民	人	15,882		15,723		15,654		15,582		15,500		15,500		15,500		
			0		0		0		0		0		0		0		
			0		0		0		0		0		0		0		
成果指標	入館者数	人	118,232		115,625		116,937		118,151		120,000		120,000		120,000		
	資料貸出冊・点数	冊・点	230,449		217,178		211,294		209,294		231,000		231,000		231,000		
	おはなし会・読書フェスティバル参加者	人	373		350		302		309		380		380		380		

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 図書館資料の貸し出し実績は年々増えており、新刊書購入に対する市民のニーズは高まっているが、行政全体を取り巻く経済情勢の悪化により、年々図書館資料費が削減されておりサービスレベルの維持が困難な状況である。
--

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性, 対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	図書館は、「教育機関」「社会教育機関」という法的位置づけがされており、学校教育、家庭教育と相まって、生涯学習の一翼を担っている。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民, または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》 <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	図書館の利用は、もっぱら利用者の自主性・自発性に基づいている。また、図書館資料は学習資源であり、その利用は自主性・自発性を旨とする生涯学習を端的な形で表しており、有効性は高く、利用も伸びている。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し, 市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し, 個々の業務の効率化等, 業務委託や臨時雇用等)》 <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	資料の購入等については、3館で協議し購入計画を立てている。また、各種サービス、事業については、各図書館の状況に応じて展開している。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り, 反省点) 本事業は、図書館の根幹の事業であり、利用者が必要とする資料の収集・提供を行い、利用者の教育と文化の発展に貢献した。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案 課題なし
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法 特になし

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止, 廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく, 問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる この事業がなされなければ, 本市の図書館サービス事業を実施すること不可能
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 市民の盛んな利用は、当事業に対する市民の高い評価を裏付けるものであり、現行どおり継続するのが適当である。
	資源配分	現状維持	